

デクセリアルズ

環境・社会報告書

2017



経営理念

# Integrity

誠心誠意・真摯であれ

企業ビジョン

# Value Matters

今までなかったものを。  
世界の価値になるものを。

私たちデクセリアルズグループは、「Integrity 誠心誠意・真摯であれ」という言葉を経営理念に掲げています。

お客さまに対して、また社会に対して、一人ひとりの社員が自分の持てる力を精一杯発揮し、その実績を着実に積み上げていく企業集団でありたい。こうした想いを社会の公器たる企業としての根幹に定めたものです。

そして、社員一人ひとりが自らの価値を高め、お客さまに利益をもたらす価値の提供者として、常に新たな創造にチャレンジしていく姿勢を、「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」という企業ビジョンによって明確化しました。

「Integrity」と「Value Matters」。この2つの言葉に託した想いを胸に、私たちは前進し続けます。

## ■ 会社概要 (2017年3月末現在)

▶ 商号	デクセリアルズ株式会社 (英文名:Dexerials Corporation)
▶ 本社所在地	〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F
▶ 代表取締役社長	一ノ瀬 隆 (いちのせ たかし)
▶ 設立	2012年6月20日
▶ 資本金	15,830百万円
▶ 連結売上高	62,598百万円
▶ 社員数	2,124名
▶ 事業内容	電子部品、接合材料、光学材料などの製造・販売
▶ 主要営業品目	異方性導電膜 (ACF)、光学弾性樹脂 (SVR)、光学関連フィルム、表面実装型ヒューズ、工業用接着剤、両面・片面テープ、光ディスク用紫外線硬化型樹脂、熱伝導シート、太陽電池用タブ線接合材料、スパッタリングターゲット、無機波長板、無機偏光板
▶ 国内事業所	鹿沼事業所、多賀城事業所、なかだ事業所、根上事業所、栃木事業所

## ■ 海外連結子会社

Dexerials America Corporation  
Dexerials Europe B.V.  
Dexerials (Suzhou) Co., Ltd.  
Dexerials Advanced Material (Suzhou) Co., Ltd.  
Dexerials (Shenzhen) Corporation  
Dexerials (Shanghai) Corporation  
Dexerials Hong Kong Limited  
Dexerials Taiwan Corporation  
Dexerials Korea Corporation  
Dexerials Singapore Pte. Ltd.

## ■ 取締役・監査役

代表取締役社長	一ノ瀬 隆
代表取締役	安藤 尚
取締役	永瀬 悟
取締役*	平野 正雄
取締役*	藤田 浩司
取締役*	横倉 隆
取締役*	高松 和子
常勤監査役*	佐竹 俊哉
監査役*	高田 敏文
監査役*	佐藤 りか

\* 会社法に定める社外取締役、社外監査役  
(2017年6月23日現在)

## 編集方針

この報告書は、デクセリアルズ株式会社の環境・社会活動をみなさまにご報告し、ご理解いただくためのコミュニケーションツールとして発行しています。

## 対象範囲

本報告書は、デクセリアルズ株式会社の国内および海外の事業所を対象としています。

## 対象期間

本報告書は、2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)の活動実績を原則とし、一部の報告・データについては過去および最新情報を記載しています。

## 参考ガイドライン

環境省発行「環境報告ガイドライン(2012年版)」

デクセリアルズ株式会社のホームページ「CSR・環境/環境活動」についてもご覧ください。

<http://www.dexerials.jp/csr/>

本報告書上では以下の名称を使用します

Dexerials America Corporation	: デクセリアルズ アメリカ
Dexerials Europe B.V.	: デクセリアルズ ヨーロッパ
Dexerials (Suzhou) Co., Ltd.	: デクセリアルズ 蘇州
Dexerials (Shenzhen) Corporation	: デクセリアルズ 深セン
Dexerials Advanced Material (Suzhou) Co., Ltd.	: デクセリアルズ アドバンスド マテリアル 蘇州
Dexerials Korea Corporation	: デクセリアルズ コリア

# CONTENTS

## 目次

経営理念・企業ビジョン	
編集方針・目次	01
トップメッセージ	02
デクセリアルズグループの事業活動	04
デクセリアルズの主な製品	06
コーポレート・ガバナンス	08
環境への取り組み	
環境理念と基本方針	10
環境マネジメント体制/環境監査体制	11
環境負荷の全体像	12
法規制遵守	14
環境対応製品	16
社会との関わり	
お客さまとともに	18
株主・投資家のみなさまとともに	20
お取引先さまとともに	21
地域社会とともに	22
社員とともに	26
安全への取り組み	
労働安全衛生・防災	28
財務情報	31

## 社員自らが課題を 新しい価値の提供

## 解決し、 を通して持続可能な社会の実現に 貢献する企業を目指します。



### デクセリアルズを取り巻く事業環境

2016年度の世界経済は、中国や新興国で景気が減速する動きがみられ、先行き不透明感が高まっているものの全体としては緩やかな回復基調が続きました。そのような事業環境の中、当社グループの製品が関わる主要業界では、スマートフォン市場の成熟やタブレットPCの需要縮小が進行するなど、厳しい状況が継続しました。しかし、私たちは事業環境の変化を見越し、急激な変化の中でも成長を続けていきます。

当社グループは、2016年度より開始した3か年にわたる中期経営計画『変革と成長 2018』において、①成長戦略：経営リソースを大胆にシフトし、期待製品および新領域での事業成長の加速、②競争戦略：競争優位性を維持することで主力製品における安定収益の継続確保、③事業構造の最適化：成長戦略、競争戦略をささえる組織・体制の構築の3つを重点戦略として掲げ、その主要施策を着実に推し進めることで、持続的成長に必要な収益基盤を確立し、企業価値の向上に繋げていきます。

### 理念とビジョンにもとづくCSRの推進

当社の経営理念である「Integrity 誠心誠意・真摯であれ」という言葉は、CSRの考えにも繋がっています。私は、全てのステークホルダーに対して「Integrity」を維持し続けることこそ当社の社会的責任であり、いかに理念に沿った事業活動を展開していくかを常に考えています。また、この理念をグループ全体で共有するため、「デ

クセリアルズグループ行動規範」としてまとめ上げ、さらにこの行動規範をベースに環境方針や品質方針などを定めています。

一方、企業ビジョン「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」は、新しい価値の提供を通じて世の中に貢献しようとする当社の企業姿勢を明文化したものです。社員一人ひとりが、これまでの事業を通して培った技術とノウハウを最大限に発揮し、新しい価値ある製品の提供を通してさまざまな課題を解決していくことで、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

### 社会的責任を果たすための 多様性への取り組み

企業がグローバルに事業活動をおこなうためには、事業を展開する各国・各地域における法令ならびにそれらの精神を遵守し、真摯に事業活動をおこなうことはもちろんですが、多様な人材が活躍できる環境を作り、共通のゴールに向かう自律した社員の集団を形成することが重要です。そして、この取り組みが、経営基盤を強化するとともに、活気にあふれた企業風土を形成し、企業の成長に繋がると考えています。

当社では、多様性を尊重した上で、広く人材を活用するため、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスの実現、外国籍社員の採用、高齢者の活用、障がい者雇用などさまざまな取り組みをおこなっています。

また、これらの取り組みを実施するためには、社員の

健康、安全、そして仕事とプライベートの調和がとれたライフスタイルを支援することが重要であるという認識のもと、社員が前向きにいきいきと仕事を進め、新たな価値を創り出していけるように働き方の改革を推進していきます。

### 多様な視点を活かし、成長し、 社会に貢献する

当社は、社員一人ひとりが柔軟な思考で課題を解決し、会社に活力を与える存在になるよう能力を伸ばし、経験や個性を発揮できる風土を整えていきます。そして、多様な社員の多様な視点を活かし、社会のニーズに応える新しい価値を提供することで会社が持続的に成長する好循環を作り、人間社会と地球環境の豊かさや質の向上に貢献する企業であり続けます。

私たちは、お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、地域社会、社員、全てのステークホルダーとの公正でオープンなコミュニケーションに努めてまいります。本報告書は、2016年度の私たちの環境・社会活動をわかりやすくまとめています。一人でも多くのステークホルダーのみなさまにご一読いただければ幸いです。

代表取締役社長

一ノ瀬 隆

未来をかたちに。  
 デクセリアルズの機能性材料。  
 想像を超える発想と  
 確かな技術力で、新たな成長へ。



## 新たな中心拠点で価値創造を加速

私たちは、エレクトロニクス分野で培った材料技術やプロセス技術といったコア技術にもとづき高付加価値製品を開発・提供することを通じて、人間社会と地球環境の豊かさと質の向上に貢献する企業を目指しています。

2016年10月に当社は新たに栃木事業所を稼働させました。今後は、この栃木事業所を中心拠点として、さらなる需要拡大が見込まれる反射防止フィルム事業に積極的な投資をおこない、体制を強化します。また、新領域では、ますます電装化が進む自動車領域にリソースを集中して事業拡大を加速させるとともに、環境、ライフサイエンス領域での事業を着実に育てることにより持続的成長が可能な体制を構築し、さらなる企業価値の向上に繋げていきます。



代表取締役 専務執行役員  
 安藤 尚



**栃木事業所**  
 生産品目 反射防止フィルム、  
 表面実装型ヒューズ  
 敷地面積 78,889㎡  
 研究開発と製造をおこなう当社のテクノロジーセンターとして位置づけています。

ソニーケミカル会社設立  
 プリント基板用接着剤  
 付き銅箔を作る会社と  
 して誕生

1962 1965

両面粘着テープ事業へ参入  
 「タックマスター」を販売開始

1972

磁気ヘッド、  
 フェライトコア生産開始

1985

熱転写プリンター用  
 インクリボン生産開始

1987

光ディスク用記録層保護  
 コーティング材生産開始

1992

抵抗膜式タッチパネル  
 生産開始

2001

熱伝導シート  
 生産開始

2004

ソニーケミカル&  
 インフォメーションデバイス  
 に社名変更

2006

デクセリアルズに社名を  
 変更し事業開始

2012

東京証券取引所市場第一部上場  
 熱線再帰フィルム アルビード、  
 排水処理剤(無機排水用)生産開始

2015

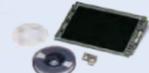
1963

液状接着剤事業へ参入  
 接着剤「ボンドマスター」を  
 販売開始



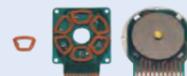
1977

異方性導電膜 (ACF) を  
 業界にさがかけて製品化



1987

超小型モーター用  
 「ラミコイル」生産開始



1994

リチウムイオン電池2次保護素子  
 セルフコントロールプロテクター  
 (SCP)生産開始



2002

反射防止フィルム、  
 光ピックアップ用  
 紫外線硬化型接着剤、生産開始



2007

ディスプレイパネルの視認性を高める  
 光学弾性樹脂 (SVR) 生産開始



無機偏光板販売開始

2010

新エネルギー分野へ参入  
 太陽電池用タブ線接合材料  
 生産開始



2014

医療向け  
 アイシールド材  
 生産開始

2016

栃木事業所稼働開始  
 粒子整列型異方性導電膜 (ACF)  
 アレイフィックス製品化

## デクセリアルズの主な製品

製品の高性能化、小型、薄型化を実現し、性能や機能、使いやすさの向上に貢献するわたしたちの優れた機能性材料をご紹介します。

### 接合関連材料



#### 異方性導電膜 (ACF)

樹脂の中に導電粒子を持ち、導通と絶縁の特性を兼ね備えたフィルム型の接合材料です。ディスプレイパネルやカメラモジュールなどの基板の接続に使われています。



#### 汎用両面粘着テープ

粘着剤塗工時に有機溶剤を使用しないUV硬化型製法のグリーンテープシリーズ。曲面追従性、耐静荷重特性に優れ、抜き加工などに適しています。



#### 熱伝導シート

CPUなどのICチップから発生する熱をすばやくヒートシンクに伝え、デバイス性能を守ります。高い熱伝導率と柔軟性を兼ね備えたシリコンタイプ、アクリルタイプに加え、ネットワークサーバーなどの発熱量の大きい用途向けに炭素繊維タイプもラインアップ。



#### 紫外線硬化型接着剤

紫外線照射により、短時間で硬化する、高精度な部品固定、貼り合わせに適した接着剤です。硬化する際の収縮率が小さく、カメラモジュールや光ピックアップ部品の固定などに適しています。



#### FPC用両面粘着テープ / FPC用ボンディングシート

高い耐熱特性 (Top260℃以上) を持つFPC用両面粘着テープとFPC裏打ち材、補強に適した熱硬化型接着テープ、FPC用ボンディングシートは主にはんだリフロー工程に使われています。



#### 耐衝撃用両面粘着テープ (防水タイプ)

衝撃に強い強力粘着層と弾性のある中空バルーン層をあわせ持つことで、落下時の衝撃を吸収し筐体を守ります。防水性が求められるモバイル機器の窓枠固定や、モジュールと筐体の固定に適しています。

### 光学関連材料



#### 光学弾性樹脂 (SVR)

スマートフォン、タブレットPCなどのエアギャップを高透過率の弾性を持った樹脂で埋めることで、視認性アップと薄型化を実現します。また、UV硬化時に粘性特性を発現し、作業性に優れた「ハイブリッドSVR」を中・小型FPD向けにラインアップ。



#### 無機波長板・無機偏光板

独自のナノレベルプロセス技術により、優れた耐熱性、耐光性、耐久性を実現した光学デバイスです。3000ルーメン以上の高輝度プロジェクターやレーザー光源を使用した光学ユニットなどの信頼性向上に貢献します。



#### 反射防止フィルム

ナノオーダーの膜厚制御技術と多層構造により、低反射と耐擦傷に優れたDryタイプの反射防止フィルム。エレクトロニクス製品をはじめ、車のクラスタやカーナビゲーションなどの車載ディスプレイの視認性向上に貢献します。また、低反射・高透過に優れた医療向けアイシールド材もラインナップ。



#### 光ディスク用紫外線硬化型樹脂

DVD、ブルーレイディスクなどの光ディスクメディア用紫外線硬化型樹脂。記録層を腐食から守る保護コーティングとブルーレイディスクメディアのベース膜、カバー層形成に適しています。

### 電子部品材料



#### 表面実装型ヒューズ

リチウムイオンバッテリーの過充電、過電流を確実に遮断する2次保護素子のセルフコントロールプロテクター (SCP) に加え、小型・薄型でありながら、過電流から電子機器を守る大電流対応のヒューズ、パワーカレントプロテクター (PCP) をラインアップ。



#### スパッタリングターゲット

ゲーム機などの高性能半導体ICチップや光ディスクの記録媒体薄膜などに使われる各種金属、酸化物を用いた薄膜形成用スパッタリングターゲット。高密度で均一な組織による高い生産性を実現し、異形状加工技術による長寿命化を可能にします。

### 環境・新エネルギー材料



#### 熱線再帰フィルム アルビード

太陽からの熱線を上方へ反射する新しいタイプの窓用透明遮熱フィルムです。内部の鏡面加工された山形の特殊な反射膜により、近赤外線 (熱線) だけを上方に反射させ、地上に向かう熱線を低減し、室内および建物周辺の暑熱環境の改善に貢献します。



#### 排水処理剤 (無機排水用)

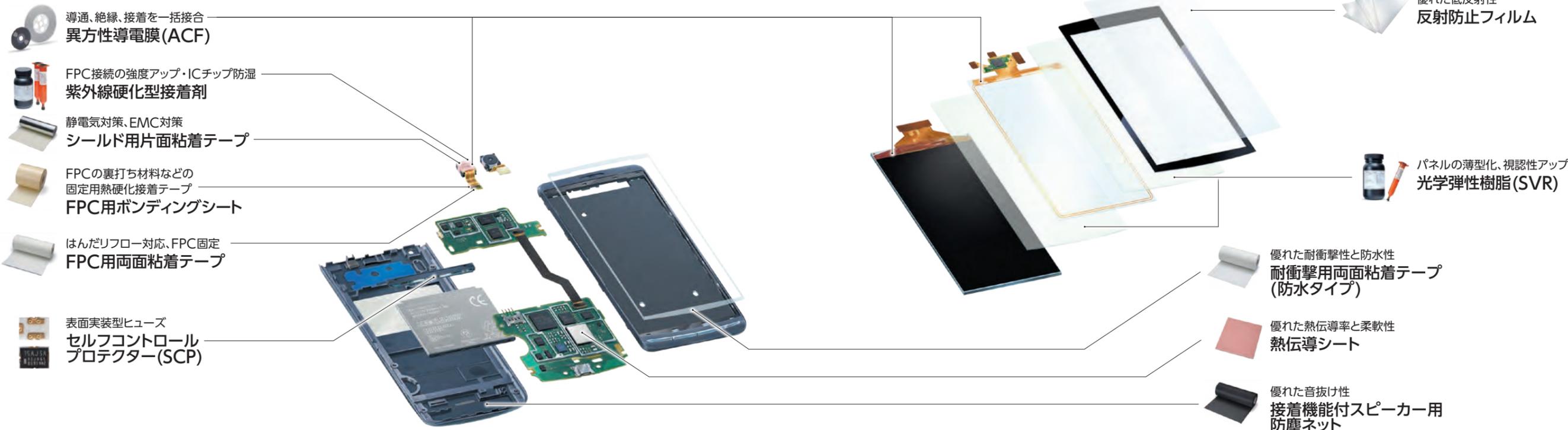
めっき工場や半導体工場などで排出される無機系排水用の排水処理剤です。植物から得られる水溶性高分子により、優れた凝結・凝集性能を発揮する上、植物の構造がもたらす脱水促進の3つの機能を兼ね備えています。これにより、薬剤使用量と污泥廃棄量の大幅削減を可能にします。



#### 太陽電池用タブ線接合材料

太陽電池セルとセルで発電した電気を集める金属線 (タブ線) を接合するためのフィルムタイプの導電接合材料です。はんだを使わず、低温接合が可能のため、熱ひずみを抑制し、セルに負担をかけず、モジュール生産時の歩留まり向上に貢献します。

わたしたちの製品はスマートフォンのここに使われています。



# コーポレート・ガバナンス

デクセリアルズグループは、「デクセリアルズグループ行動規範」を遵守し全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を向上させるために、コーポレート・ガバナンスの強化、充実に努めています。

## デクセリアルズグループ基本方針

### デクセリアルズグループ行動規範

当社グループは、グループ内の全役員、全社員が遵守すべきルールとして、「デクセリアルズグループ行動規範」を定め、コンプライアンスの徹底と健全な事業活動を推進しています。

行動規範は、その基本方針として、当社の経営理念「Integrity 誠心誠意・真摯であれ」の実行、法令・規定の理解と遵守、ステークホルダーへの的確な情報発信と説明責任の遂行、社内通報制度の活用による内部統制の確保を掲げています。さらに、この基本方針にもとづいて、役員および社員が常に遵守すべき具体的な約束事項として、人権尊重、製品・サービスの安全、環境保全、企業情報開示、ハラスメントの禁止、インサイダー取引禁止、反社会的勢力への対応などをはじめとしたさまざまな行動の指針を定めています。行動規範は、英語、中国語、韓国語に翻訳され、国内外の全グループ会社に適用されています。

## 行動規範の浸透のための取り組み

### コンプライアンスハンドブック

「コンプライアンスハンドブック～わたしたちの約束」は、「デクセリアルズグループ行動規範」の中から、特に事業活動と関係の深いテーマを取り上げ、具体的な事例などを用いて社員向けにわかりやすく解説した小冊子です。

国内・海外を含む当社グループ全社員に配布し、社員研修などでも活用しています。

### ◆デクセリアルズグループ行動規範

1. 基本方針	2. 誠実公正な事業活動	3. 健全な職場環境	4. 資産・情報管理	5. よき企業市民として
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営理念の実行</li> <li>● 法令・規定の遵守</li> <li>● ステークホルダーとの関係</li> <li>● 社内通報の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 顧客・取引先との信頼関係</li> <li>● 製品の安全</li> <li>● 公正な競争</li> <li>● 公正な調達活動</li> <li>● 輸出入法規の遵守</li> <li>● 贈答・接待の制限</li> <li>● 記録および報告</li> <li>● 個人的利益相反の禁止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己実現の職場環境</li> <li>● 雇用の機会均等</li> <li>● 健全な労働</li> <li>● ハラスメントの禁止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会社資産の私的利用の禁止</li> <li>● 知的財産</li> <li>● 機密情報の管理</li> <li>● インサイダー取引の禁止</li> <li>● 個人情報</li> <li>● メディアとの関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境保全</li> <li>● 化学物質管理</li> <li>● 地域との共存</li> <li>● 安全防災への取り組み</li> <li>● 反社会的勢力への対応</li> </ul>

## コンプライアンス教育

当社グループは毎年、全社員を対象として、コンプライアンス、インサイダー取引防止、輸出入コンプライアンス、情報セキュリティと個人情報管理、ハラスメント防止などをテーマとしたe-ラーニング研修を実施しています。

また、新入社員、管理職、役員など、役割や階層に応じて必要となるさまざまな法令知識やリスクセンスの習得のため、階層別コンプライアンス研修を実施し、コンプライアンスの理解と行動規範の浸透を図っています。

## 社内通報制度

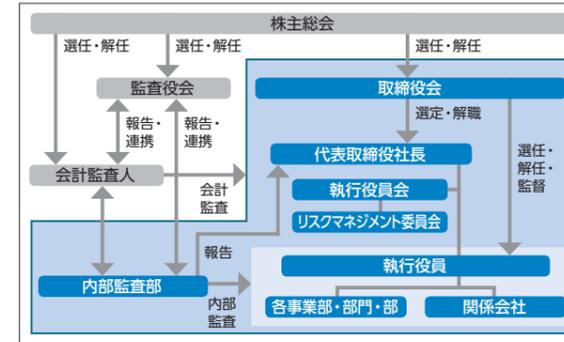
当社グループでは、社内と社外（顧問弁護士）の2カ所の社内通報窓口を設け、コンプライアンスリスクの早期発見と、自律的な是正にもとづく健全な事業活動を推進しています。

## コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループは、企業活動をささえている全てのステークホルダーの信頼と期待に応え、企業価値の向上を図るために、コーポレート・ガバナンスの確立が極めて重要な課題であると考えています。

この考えにもとづき、取締役会を独立社外取締役が過半数を占める体制とすることにより、経営の透明性・客観性を確保しています。

## ◆コーポレート・ガバナンスの体制図



## 取締役・取締役会・執行役員

取締役会は、独立社外取締役4名と社内取締役3名の合計7名で構成し、独立社外取締役が過半数を占めています。独立社外取締役は、いずれも経営者、専門家として豊富な経験や高い見識を持っており、独立した立場から監督機能を果たしています。

業務執行は、執行役員11名を選任して権限の委譲をおこなっています。このような体制により、監督機能と業務執行との分離、経営の透明性の向上、経営責任の明確化、意思決定の迅速化を図っています。

## 監査役・監査役会

監査役会は、独立社外監査役3名で構成することで、透明性を確保するとともに、経営に対する監査機能を果たしています。

監査役は、代表取締役との意見交換、重要な会議への出席、重要書類の閲覧、重要な財産の調査、事業部門へのヒアリング、子会社調査などをおこなうとともに、内部監査部、会計監査人と連携をとりながら、監査の実効性、効率性を高めています。

## 内部監査

内部監査部は、当社および当社グループ会社に対して、内部統制システムの整備、コンプライアンス、リスク管理体制の遵守、整備状況の監査をおこなっています。内部監査の結果については、改善状況を定期的に確認し、その内容を代表取締役社長、監査役および関係部署に報告しています。

## 会計監査

会計監査については、PwCあらた有限責任監査法人と監査契約を締結し、会社法および金融商品取引法にもとづく監査を実施しています。

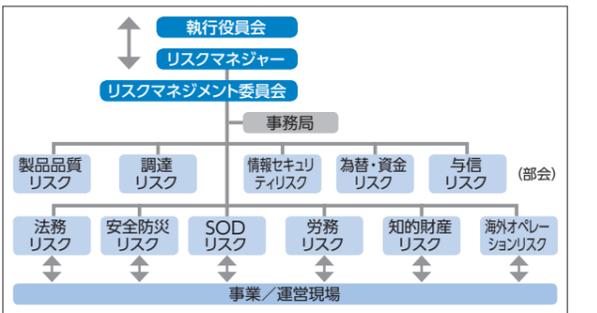
## リスクマネジメント

当社グループは、グループ全体のリスクを横断的に管理する機関としてリスクマネジメント委員会を設置しています。委員会は11の専門領域の部会で構成され、各部会ごとに事業運営に関連するリスクを中心として、リスク情報の収集、評価、対策をおこなっています。

また、リスクマネジャーは定期的に全部会の責任者を招集し、各部会の重要リスクとその対策の進捗を確認しています。

リスクが顕在化した場合、当社が定める情報伝達ルートに従い、リスクマネジメント委員会へ報告の上、執行役員会において対応を協議し、経営に重大な影響をおよぼす恐れのあるリスクに関しては取締役会に報告しています。

## ◆リスクマネジメント体制



## Voice

### 「つながり」を意識し 持続的成長を実現

執行役員  
総務・人事部門長、法務担当  
石黒 聡



デクセリアルズは、取り巻く環境変化への対応力を強化するため、2016～2018年度にかけて事業構造の最適化から持続的成長への取り組みを進めています。その過程においては、コーポレート・ガバナンス機能の充実やリスクマネジメント体制の強化はもちろんのこと、現場とつながり、現実を踏まえた日々の着実な運営、コミュニケーションのさらなる充実と企業内の活力を向上させていくことが重要と考えます。私たち一人ひとりがこうした意識を強くし、行動変容を重ねていくことによって、企業価値の向上につなげていきます。

# 環境理念と基本方針

デクセリアルズグループの環境活動は、企業ビジョンのもと「環境理念」と「基本方針」を定め、ISO認証取得の主旨とプロセスに沿って推進しています。

## 環境理念

当社グループは、企業ビジョン「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」のもと、地球上のあらゆる生態系と社会、および会社の持続性を確保する環境配慮と資源循環の視点に立ち、新たな価値に繋がる事業と環境保全活動を展開していきます。

## 基本方針

当社グループは環境経営を推進し、社員一人ひとりが技術と能力を駆使してその達成に取り組み、全ての業務領域において計画的目標達成と継続的改善を重ねて、社会から尊敬され、信頼される会社であり続けます。

1. 環境事業に積極的に参入し、環境配慮型製品を継続的に開発して提供します。
2. エネルギーや資源を有効に活用し、生産性向上と循環型オペレーションを展開します。
3. 環境リスクの低減活動と化学物質のフロー管理を着実に実行し、汚染予防に努めます。

4. 国内外の環境保全に関する法律、条例、規制などを把握して、これを遵守します。
5. 実務、教育、広報を通じて、環境意識と専門性の向上、人材の育成に繋がります。
6. 社会や地域の一員としての環境保全と連携、およびコミュニケーション活動を推進します。
7. 活動の推進体制、交流・共有と活性化、マネジメントシステムの維持向上に努めます。

### 環境経営とは

- 1 地球上のあらゆる生態系および社会の持続性を確保するために、
- 2 循環の視点に立ち、
- 3 資源量・廃棄場所・自浄能力という地球の有限性を考慮し、
- 4 企業収益と環境保全とを両立させながら、
- 5 自社にとっての持続性を確保するために行う経営の諸活動である。

(立山裕二著「利益を生み出す「環境経営」のすすめ」(総合法令出版,2009)3頁)



本報告書に掲載されている環境理念、基本方針をはじめとしたCSR・環境活動に関する情報は、当社ホームページでも開示しています。本報告書のPDF版もこちらでダウンロードが可能です。併せてご利用ください。

<http://www.dexerials.jp/csr/>

# 環境マネジメント体制／環境監査体制

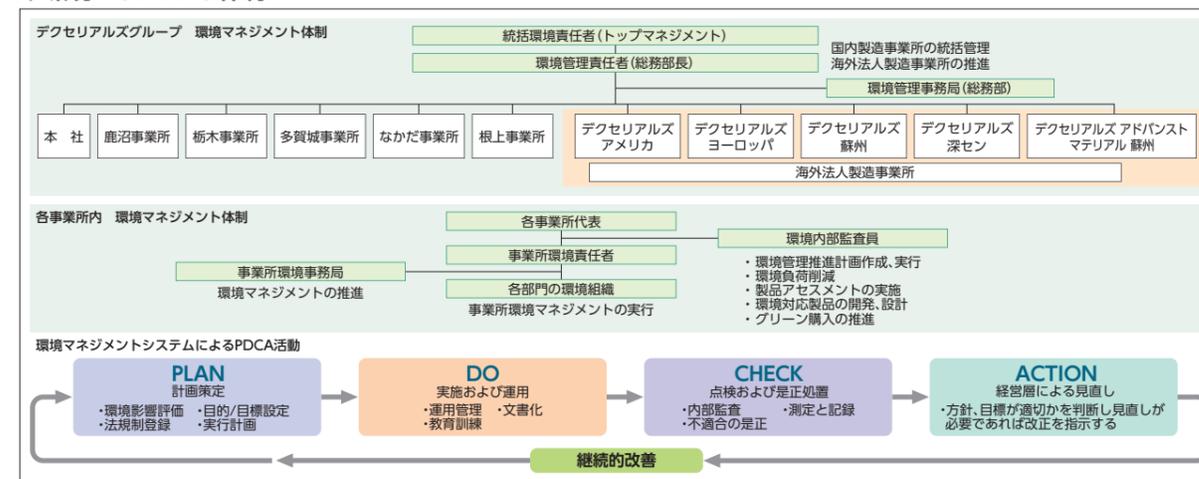
デクセリアルズグループは、環境理念と基本方針のもと、全社体制で環境活動に取り組んでおり、その活動は内部監査や、第三者機関がおこなう外部監査によって確認しています。

## 環境マネジメント体制

当社グループは、環境理念と基本方針のもと、国内外の全事業所を包括する環境マネジメントシステムを構築し、外部認証機関BV(ビューローベリタス)によるマネジメントシステムの適合状況、システム/プロセスの運用状況、

有効性、妥当性などの審査を受け、ISO14001の認証を取得しています。このシステムにもとづいて環境管理責任者が各事業所を統括・管理し、全社体制で事業所間を横断した環境活動に取り組んでいます。各事業所にはそれぞれ環境事務局を置き、事業所ごとに異なる取り扱い製品や設備の違いを考慮した環境活動に取り組んでいます。

### ◆環境マネジメント体制



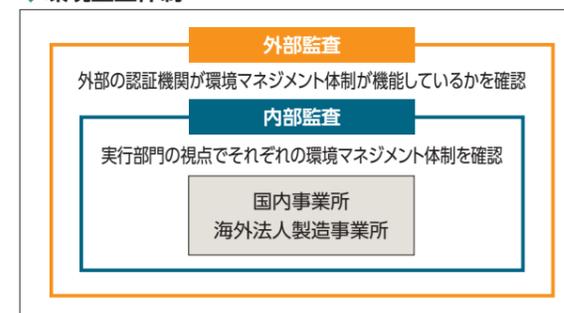
## 環境監査体制

当社グループの環境監査体制は、第三者機関による認証審査(外部監査)とグループ内の事業所が自らの組織について監査する内部監査によって、環境マネジメントシステムの適合性、有効性、妥当性を確認しています。

### 外部監査

第三者機関による毎年の維持審査と3年ごとの更新審査を受け、環境マネジメント体制が機能していることを確認しています。

### ◆環境監査体制



### 内部監査

毎年、環境マネジメントシステムが有効に実施されているかどうかを社内で設定した監査基準に従って検証しています。

## ISO14001 認証取得

当社グループは、国内5拠点、海外4拠点でISO14001の認証を取得しています。

環境マネジメントシステム	会社名	事業所名	認証登録番号
ISO14001	デクセリアルズ株式会社	本社	3538412
		鹿沼事業所	
		なかだ事業所	
		多賀城事業所	
	根上事業所		
	デクセリアルズ ヨーロッパ	NL016090-1	
	デクセリアルズ 蘇州	CNBJ311710-UK	
	デクセリアルズ アドバンスト マテリアル 蘇州	CNBJ311710-UK	
	デクセリアルズ 深セン	CNGZ301221-UK	



# 環境への取り組み 法規制遵守

デクセリアルズグループは環境関連の法規制を遵守しています。

## 2016年度の法規制遵守状況

当社グループは、国内外事業所の大気汚染、水質汚染など環境関連の法規制や条例などが適用される項目について、自主基準値を設けて管理しています。

騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法も、敷地境界での規制値を超過しないよう対策を施し、自主基準値を設け維持管理しています。

\* 栃木事業所は、2016年度の途中から稼働しているため他の事業所と管理項目が異なります。  
\* 多賀城事業所、根上事業所は、賃借事業所であり、管理対象外となっています。

### 国内事業所

#### 鹿沼事業所

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値
大気汚染防止法				
煤塵	g/Nm <sup>3</sup>	<0.3	<0.15	0.005(0.005)
窒素酸化物	ppm	<180	<115	41(76)
硫黄酸化物	—	<8(K値)	<4	0.1(0.4)
VOC	ppmC	<1400	<700	55(210)

項目	単位	鹿沼 第1工場			鹿沼 第2工場		
		法定基準	自主基準	測定値	法定基準	自主基準	測定値
水素イオン濃度	—	5.8~8.6	6.6~8.1	7.2(7.4)	5.8~8.6	6.9~8.3	7.8(8.1)
BOD <sup>#1</sup>	mg/l	<20	<15.3	3.7(13.0)	<20	<10.0	2.7(5.3)
COD <sup>#2</sup>	mg/l	<20	<10.2	2.6(6.4)	<20	<10.0	2.5(4.8)
SS <sup>#3</sup>	mg/l	<40	<20.0	1.9(6.0)	<40	<20.0	1.3(4.0)
Nヘキサン(鉱油類)	mg/l	<5	<2.5	<1.0(<1.0)	<5	<2.5	<1.0(<1.0)
銅	mg/l	<3	<1.5	0.1(0.2)	<3	<1.5	0.1(0.1)
鉄	mg/l	<3	<1.5	0.1(0.1)	<3	<1.5	0.1(0.1)
大腸菌	mg/l	<3000	<1500	0.1(1.0)	<3000	<1500	4.1(16.0)
総窒素	mg/l	<60	<30.0	6.7(13.0)	<60	<30.0	6.0(7.1)
総りん	mg/l	<8	<4.0	0.2(1.1)	<8	<4.0	0.4(1.9)

項目	単位	条約基準(敷地境界)	測定値
悪臭防止法			
臭気指数	—	18	<10(<10)
臭気強度	—	—	—

時間	単位	条約基準	測定値
騒音規制法			
6:00~8:00	dB	70	51(57)
8:00~18:00	dB	75	53(62)
18:00~22:00	dB	70	49(55)
22:00~6:00	dB	60	48(57)

時間	単位	条約基準	測定値
振動規制法			
8:00~20:00	dB	70	32(41)
20:00~8:00	dB	65	30(30)

測定値:実績平均値( )内は最大値

#### なかだ事業所

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値
大気汚染防止法				
煤塵	g/Nm <sup>3</sup>	<0.3	<0.03	0.003(0.003)
窒素酸化物	ppm	—	<90	56(62)
硫黄酸化物	(K値)	<1.26	<0.126	0.03(0.033)

項目	単位	条約基準	自主基準	測定値
下水道法				
水素イオン濃度(pH)	—	5.8~8.6	6.1~8.3	7.7(7.9)
BOD <sup>#1</sup>	mg/l	<300	<90	3.7(8.5)
SS <sup>#3</sup>	mg/l	<300	<200	36.8(96.0)
Nヘキサン(鉱油類)	mg/l	<5	<1.5	<1.0(<1.0)
Nヘキサン(動植物油脂類)	mg/l	<30	<9	<1.0(<1.0)

項目	単位	協定基準	測定値
悪臭防止法			
臭気指数	—	—	—
臭気強度	—	1.8	0.2(0.4)

時間	単位	協定基準	測定値
騒音規制法			
6:00~8:00	dB	50	46(51)
8:00~18:00	dB	55	43(50)
18:00~22:00	dB	50	49(50)
22:00~6:00	dB	45	41(45)

時間	単位	協定基準	測定値
振動規制法			
8:00~20:00	dB	60	26(32)
20:00~8:00	dB	55	27(34)

測定値:測定項目平均値( )内は測定値の最大値

#### 栃木事業所

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値
水質汚濁防止法				
水素イオン濃度	—	5.8~8.6 <sup>#4</sup>	5.8~8.6	7.8(8.1)
BOD <sup>#1</sup>	mg/l	<8(MAX10) <sup>#4</sup>	<8(MAX10)	1.9(3.7)
COD <sup>#2</sup>	mg/l	<8(MAX10) <sup>#4</sup>	<8(MAX10)	3.7(8.1)
SS <sup>#3</sup>	mg/l	<30 <sup>#4</sup>	<15.0	1.3(2.4)
Nヘキサン(鉱油類)	mg/l	<5 <sup>#4</sup>	<2.5	<1.0(<1.0)
銅	mg/l	<3	<1.5	0.1(0.1)
鉄	mg/l	<3	<1.5	0.1(0.1)
大腸菌	mg/l	<3000	<1500	12.0(140.0)
総窒素	mg/l	<60	<30.0	8.8(39.0)
総りん	mg/l	<8	<4.0	0.5(3.4)

時間	単位	条約基準	測定値
騒音規制法			
6:00~8:00	dB	70	52(54)
8:00~18:00	dB	75	51(56)
18:00~22:00	dB	70	47(56)
22:00~6:00	dB	60	46(56)

時間	単位	条約基準	測定値
振動規制法			
8:00~20:00	dB	70	32(35)
20:00~8:00	dB	65	31(32)

測定値:実績平均値( )内は最大値

### 海外事業所

#### デクセリアルズ 蘇州

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値
大気汚染防止法				
TVOC <sup>#5</sup>	kg/h	<1.8	<1.8	0.002
エタノール	kg/h	<10	<10	0.047(0.087)

項目	単位	条約基準	測定値
環境騒音			
6:00~22:00	dB	65	58(63)
22:00~6:00	dB	55	52(54)

測定値:実績平均値( )内は最大値

#### デクセリアルズ アドバンスト マテリアル 蘇州

項目	単位	法定基準	自主基準	測定値
大気汚染防止法				
エタノール	kg/h	<30	<30	ND(不検出)

測定値:実績平均値( )内は最大値

- \*1 BOD:Biochemical Oxygen Demand (生物学的酸素要求量)
- \*2 COD:Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量)
- \*3 SS:Suspended Solids (浮遊物質)
- \*4 協定基準
- \*5 TVOC:Total Volatile Organic Compounds (総揮発性有機化合物)

## 化学物質管理

### PRTR法への対応

当社グループは、PRTR法にもとづいて化学物質の排出量・移動量の実績を把握し、1年間の合計量を報告しています。2016年度の各事業所における化学物質の排出量・移動量は以下の通りです。

### ◆2016年度PRTR該当物質(国内事業所)

事業所	化学物質	排出・移動量合計(t)
鹿沼事業所	アクリル酸及びその水溶性塩	0.17
	アクリル酸2-ヒドロキシエチル	0.05
	アクリル酸ノルマルブチル	4.29
	アンチモン及びその化合物	0.26
	エチルベンゼン	0.48
	キシレン	0.61
	酢酸ビニル	0.09
	トルエン	20.80
	二アクリル酸ヘキサメチレン	0.51
	ニッケル	0.06
	ノルマルヘキサン	0.75
なかだ事業所	ニッケル化合物	0.73
根上事業所	マンガン及びその化合物	0.35
	トルエン	2.08

### PRTR集計・算出の方法

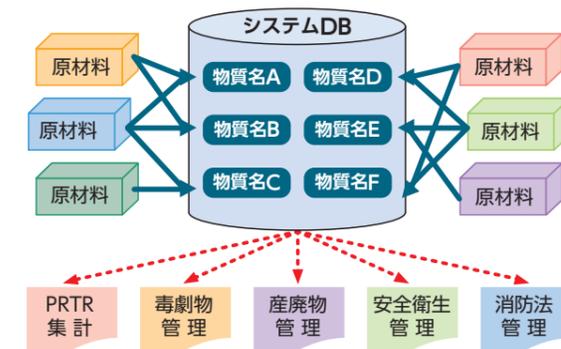
購入実績値に分配係数を用いて排出・移動量に振り分ける方法を採用しています。

### 化学物質総合管理システムの導入

当社グループでは購入した原材料・薬品を化学物質単位でデータベース登録し、必要に応じて集計項目ごとにデータを出力することができる管理システムを導入しています。

事業所や事業部門単位で化学物質使用状況調査に幅広く活用できるこの管理システムにより、適用法規制改正に対応し、コンプライアンス違反防止に努めています。

### ◆化学物質総合管理システム



### 化学物質リスクを最小化するために

当社グループでは、化学物質に関する製品コンプライアンスの維持ならびにお客さまへ将来にわたって安心・安全な製品提供・事業所環境を維持継続するために、化学物質適正管理委員会を組織して社内ですべての化学物質を適正かつ一元的に管理する体制を確立しています。

事業活動の中では本委員会を通じて、化学物質の使用管理はもとより、近年の国内および海外諸国における化学物質関連法規制改正への確に対応すべく、原材料購入から製品の設計・製造・物流・輸出入に関して、法規制面での確認・対応をおこなっています。

また、化学物質は環境や健康に影響をおよぼすリスクがあるため、導入される全ての化学物質について管理区分の確認とリスク評価をおこない、使用管理を徹底しています。

### ◆化学物質適正管理委員会



### 製品環境規制への対応

当社グループは、化学物質の安全性評価の推進を目的とした欧州のREACH規則<sup>\*1</sup>への対応を進めています。

REACH規則によって定められた特定の物質(高懸念物質:SVHC物質)を規定含有量以上含む場合には、顧客への情報伝達や欧州化学品庁への届出などが求められます。

混合物<sup>\*2</sup>については、当社の欧州現地法人であるデクセリアルズ ヨーロッパと連携してREACHへの登録が必要となる化学物質の調査をおこない、予備登録を完了して、Substance Information Exchange Forum (SIEF)を通じて本登録が進められています。また、特定の物質については当社が定めた調査方法で調達先からの回答を入手し、その結果にもとづき特定の物質の含有・非含有を判断しています。

- \*1 REACH:Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicalsの略。2007年6月1日発効。
- \*2 混合物:2種類以上の化学物質を混合した物のことで、当社の製品では、液状の接着剤、熱硬化性の接着フィルムなどが該当。

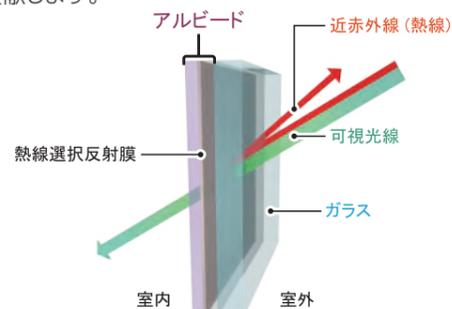
# 環境対応製品

デクセリアルズグループは、製品に含まれる環境管理物質を削減した環境配慮型製品を製造しています。また、今まで世になかった環境負荷低減に貢献する技術を開発し製品化しています。

太陽からの近赤外線(熱線)を上方に再帰させることで室内と街路の暑熱環境を改善する透明遮熱窓用フィルム

## 熱線再帰フィルム アルビード

アルビードは、フィルム内部にナノレベルの精度で形成した熱線選択反射膜により、太陽光に含まれる熱線だけを選択し、地表ではなく上方(天空方向)に反射させます。熱線の遮へいにより室内の温度上昇を抑えることで省エネ効果をもたらすとともに、上方への反射により地表に向かう熱線を減らすことで建物周辺の暑熱環境を改善し、ヒートアイランド現象の緩和に貢献します。



### Voice

#### こだわりぬいたオリジナル技術で社会に貢献

環境ライフサイエンス事業室  
商品開発5部 商品2課  
西川 智弘



2016年12月から出荷を開始したアルビードの新製品の特長は、従来品よりも熱線を上方に反射させる再帰性能と窓ガラスへ貼る際の施工性を向上させたことです。お客さまに、より良い製品を提供するという開発チームの強い意思のもと、当社が持つさまざまな技術を駆使し、材料開発で直面した多くの課題を解決し、製品化に至りました。今後は私たちの製品が広く普及し、地球環境の改善に貢献していくことを願っています。

植物の力で凝結・凝集・脱水を促し、汚泥の発生量を削減する排水処理剤

## 排水処理剤(無機排水用)

金属イオンを含むめっき工場排水やフッ素イオンを含む半導体工場排水などの無機排水用の排水処理剤です。植物から得られる水溶性高分子の特性を活かし、無機排水処理にあたって優れた凝結、凝集性能を発揮することに加え、植物の繊維構造がもたらす脱水促進の3つの機能を兼ね備えています。これにより、排水処理における薬剤使用量と廃棄物となる汚泥発生量の削減に貢献します。



### Voice

#### 人間社会と地球環境の豊かさの向上を目指して

環境ライフサイエンス事業室  
開発営業1課  
武野 裕紀



あらゆる産業で必要とされる「水」は、物を生み出すと同時に排水として放流されます。物を持続的に生産していくためには、排水を環境に負荷をかけない形で処理することはもちろん、その過程で生じてしまう汚泥の量も減らしていくことが理想です。これら両方の課題を解決できるのが、当社が開発した排水処理剤です。この排水処理剤を世界に広げ、地球環境を守ると同時に経済発展にも貢献する—そんな価値を提供していきます。

粘着剤塗布工程に環境負荷となる有機溶剤を使わない粘着テープ

## グリーンテープ G9000シリーズ

グリーンテープは粘着剤塗布工程に有機溶剤を使用せず、紫外線硬化型製法で接着層を製造する粘着テープです。曲面追従性・耐衝撃性・リサイクル性など、お客さまのご要望に合わせてさまざまな機能を持つモデルを製品化し、液晶テレビやパソコン、スマートフォン、家電機器、産業用機器に至るまで広範な用途で使われています。また、紫外線硬化型の接着剤も製品化しています。



### Voice

#### 紫外線硬化型製法で環境負荷を低減

フィルムプロダクツ事業部  
商品開発2部 開発2課  
荒木 登

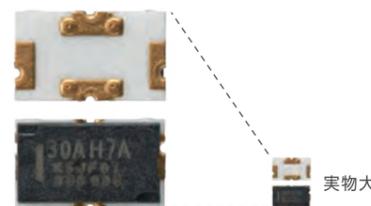


グリーンテープは、環境負荷を低減したいとの思いから、多くの有機溶剤を使用していた従来の粘着テープとは異なる、紫外線硬化型製法を利用し商品化しました。開発にあたっては、原材料や装置など手探りの状態ではありましたが、ラボ設備で検討を繰り返した結果、従来の粘着テープ同等以上の性能を実現することができました。今後も、今までになかった新しい価値の製品開発を通じて、持続可能な社会の実現に貢献したいと思っております。

ハロゲンフリーを実現、リチウムイオン電池の過充電や過電流を遮断するヒューズ

## セルフコントロールプロテクター(SCP)

セルフコントロールプロテクター(SCP)とは、タブレットPCやコードレス電動工具などに搭載されるリチウムイオン電池の過充電や過電流を確実に遮断して製品を保護する「表面実装型ヒューズ」です。従来は、焼却するとダイオキシンが発生するハロゲン化合物を使用したものが主流でしたが、当社では業界にさきがけて2008年よりハロゲン化合物を含まない製品を開発・販売し、現在では全ての製品をハロゲンフリー化しています。



### Voice

#### 独自技術でお客さまの課題に応え、新たな成長に繋げる

電子デバイス事業部  
商品開発4部 開発1課  
古内 裕治



SCPは、リチウムイオン電池の安全性を高めたいというお客さまのニーズに対して、当社が強みを持つプリント基板技術と機能性樹脂技術をヒントにして独自開発した製品で、リチウムイオン電池市場の拡大に伴い採用機器も広がっています。今後は、より小型化、低抵抗、大電流に対応した製品の開発をおこなうとともに、その技術を活用した新たな機能デバイスの開発に取り組み、スマートエネルギー社会に貢献する製品の提供を目指します。

# お客さまとともに

安心して製品をお使いいただくために、信頼性と満足度の高い製品品質に取り組んでいます。またより多くのお客さまに実際に製品をご覧いただき、知っていただくために国内外のさまざまな展示会に出展しています。

## 品質基本方針

当社グループは、企業ビジョン「Value Matters 今までなかったものを。世界の価値になるものを。」のもと、技術の追求と高い品質の製品・サービスの提供を通し、お客さまの製品価値向上に貢献することを品質理念として制定するとともに、品質活動に取り組む基本的な方向性を示した品質基本方針を制定し、品質と製品安全に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。

### 基本方針

1. 安心・安全な製品・サービスを提供します。
2. 全ての関係法令・規制を遵守するために、製品コンプライアンス体制を構築し、維持します。
3. 継続的なリスク低減活動と未然防止活動を実践します。
4. OJT・教育訓練を通じて、人材の育成・専門性の向上を図ります。
5. 品質マネジメントシステムを活用し、その有効性の向上に努めます。

## 製品安全

製品の安全性は最優先との基本方針のもと、製品の安全性を保証しお客さまに安心してお使いいただくために、当社では各種製品安全規格への適合試験を実施し、認証登録を受けています。

### 品質マネジメントシステム認証取得状況

品質マネジメントシステム	会社名	事業所名	認証登録番号
ISO9001	デクセリアルズ株式会社	本社	3148969
		鹿沼事業所	
		なかた事業所	
		多賀城事業所	
	デクセリアルズ ヨーロッパ	NL012504-1	
ISO/TS16949	デクセリアルズ株式会社	鹿沼事業所	235255 (IATF) 235250 (IATF) 235235 (IATF)
		デクセリアルズ 蘇州	CNBJ311101-UK
		デクセリアルズ アドバンスト マテリアル 蘇州	CNBJ311101A-UK
		デクセリアルズ 深セン	CNBJ300478-UK
ISO13485	デクセリアルズ株式会社	鹿沼事業所	MD665939

## 品質管理

当社グループは、お客さまとのコミュニケーションを通して、お客さまのご要望や技術的課題を共有し、技術面での支援や解決策を提供することで、お客さまの信頼に応え、ご満足いただける製品づくりを目指しています。

当社の全て\*の製造事業所は、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しており、年度ごとに策定する品質事業計画を実行するプラットフォームとして、品質目標の達成と品質や製品の安全性の向上に取り組んでいます。また、自動車用部品に求められる高い品質と信頼性を維持するための自動車産業用品質マネジメントシステム規格(ISO/TS16949)や、安定した品質とコンプライアンスが重視される医療機器用品質マネジメントシステム規格(ISO13485)の認証を取得し、事業領域ごとに特徴的な顧客要求や法規制に対応できる品質保証体制を確立しています。

重大な品質問題の発生が懸念される場合も含めて、ステークホルダーに影響をおよぼす品質問題については、担当の部署から直接かつ速やかに経営層に報告し、適切な対応を取る体制を整えています。

\*栃木事業所は2017年4月に取得

## Voice

### お客さまの製品価値向上を目指して

上席執行役員  
生産・品質本部長  
山田 幸男



当社の事業領域は、エレクトロニクス分野に加え、自動車、環境、ライフサイエンスなど新たな分野へと拡大しています。私たちは、どのようなビジネス環境の変化にも柔軟に対応し、お客さまの製品価値向上に貢献するとともに、安心して製品をお使いいただくために関係法令や規制を遵守し、技術の追求と高い品質の製品・サービスの提供に努めています。そのために、社員が安心して安全に業務に取り組める職場環境の整備をはじめとして、社員の能力を高めるための品質研修などを通じた人材育成に今後も継続的に取り組んでいきます。

## 品質研修

当社では、品質に強い人材を育成するために、新入社員から専門技術者向けの幅広い階層を対象にした品質研修ロードマップを作成し、基礎的な品質の知識から専門的な知識のみならず、品質におけるコンプライアンスや企業倫理も含めた研修をおこなっています。

## 展示会

2016年度は国内外合わせて計34回の出展をおこないました。

### 国内

当社は2017年3月1日から3日まで、東京ビッグサイトで開催された「スマートエネルギーWeek2017」内の「第8回国際二次電池展」に出展し、セルフコントロールプロテクター(SCP)、パワーカレントプロテクター(PCP)などの表面実装型ヒューズを展示しました。

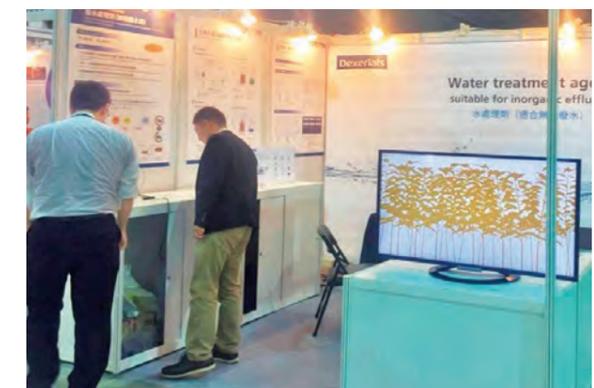


セルフコントロールプロテクター(SCP)は、過充電と過電流の2つの危険な状態からリチウムイオンバッテリーを保護するヒューズです。展示会では、動画を用いて製品の長所をわかりやすく紹介しました。

近年では、急速充電に対応するスマートフォン向けへの採用が進んでいます。展示会では、スマートフォンのみならず、さまざまなアプリケーションに対応する幅広い製品ラインナップを展示し、来場者からは自動車への採用実績についての質問も多くありました。

### 海外

2016年10月12日から14日まで、台湾の台北市にある台湾南港展覧館で開催されたクリーンエネルギーや自然環境をテーマにした展示会「Taiwan International Green Industry Show」(通称:TiGiS)内の「Taiwan Water」ゾーンに出展し、排水処理剤(無機排水用)を展示しました。



また、2016年10月18日~20日までドイツのWolfsburgで開催された、自動車関連の展示会「International Suppliers Fair (IZB 2016)」に初めて出展し、反射防止フィルムや光学弾性樹脂(SVR)、異方性導電膜(ACF)など、当社が持つ自動車関連の製品を数多く紹介しました。

ブースでは、ポスターだけでなく動画も使って製品をわかりやすく紹介しました。海外でも当社製品への関心は高く、多くのお客さまにご来場いただきました。



# 株主・投資家のみなさまとともに

透明性、信頼性の高い情報開示と誠実なコミュニケーションを通じて、中長期で企業価値の向上を目指します。

## 情報開示

当社は、株主や投資家のみなさまに対する適時・適切な開示が、意思決定の透明性、公平性の確保と実効的なコーポレート・ガバナンス機能を担保するとともに、当社に対する理解の促進や適正な市場評価などを通じて企業価値の向上に繋がると考えています。

このため、法令にもとづく開示だけでなく、ホームページでのIRサイトや株主通信など、さまざまな形で主体的な情報発信をおこない、透明性と信頼性の高い情報開示体制の構築に努めています。

また、利用者にわかりやすく、投資判断に有益な情報開示になるよう、資料での表現や記載方法に配慮するとともに、海外の株主・投資家のみなさまにとり、特に重要と思われる情報については英語版の資料を作成して開示するなどの対応をしています。



IRサイト



株主通信(2017年3月期)

## 利益還元の方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を最重要な経営課題のひとつと位置づけており、成長投資による企業価値向上が株主共通の利益という認識のもと、持続的な企業価値向上に繋がる事業投資を優先しつつ、のれん償却前連結当期純利益に対する総還元性向<sup>※1</sup>140%程度を目処に、利益成長に応じた株主還元を基本方針としています。

実際の配当額は、健全な財務基盤を確保しつつ、成長に必要な投資額、フリー・キャッシュ・フロー<sup>※2</sup>の見通し、自己株式の取得を含む総還元性向、安定配当の重要性などを総合的に勘案して決定しています。

※1 のれん償却前連結当期純利益に対する総還元性向

$$= \frac{\text{総還元額(年間配当金総額+年間自己株式取得額)}}{\text{連結当期純利益にのれん償却額を加えた金額}} \times 100$$

※2 フリー・キャッシュ・フロー  
=営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

## 株主総会

当社では定時株主総会の開催にあたり、招集通知の早期発送や情報の充実、和英資料のホームページへの掲載など、株主のみなさまに公平に情報を提供し、権利行使のための十分な情報と検討期間が確保できるようにしています。また、個人株主向けにはインターネット上の議決権行使サイト、機関投資家向けには議決権電子行使プラットフォームをそれぞれ採用し、議決権の電子行使を可能にするための環境づくりに努めています。

## IR活動状況

2017年3月期におけるIR活動状況は以下の通りです。

活動	頻度	内容
アナリスト・国内外機関投資家との面談	150回	●個別面談や電話会議を実施したほか、証券会社主催の投資家コンファレンスに参加
機関投資家・アナリスト向け説明会	5回	●決算説明会 4回開催 ●反射防止フィルム事業説明会 1回開催
個人投資家向け説明会	4回	●個人投資家向け投資セミナーや証券会社の支店において説明会を実施、延べ430名の個人投資家のみなさまがご参加 ●このほか、証券会社の営業員さま向け説明会を2回実施
IR資料のホームページ掲載	随時	●決算短信や補足資料をはじめとする開示資料、株主通信、有価証券(四半期)報告書、株主総会関連資料やIRイベントカレンダーなどを掲載 ●特に重要と思われる情報については、関連リリースおよび資料を英語に翻訳して掲載



アナリスト・機関投資家向け決算説明会

# お取引先さまとともに

公正な資材調達を目指す調達基本方針と、環境に配慮した調達を目指す環境管理物質標準を制定し、公正で環境にやさしい調達に取り組んでいます。

## 調達基本方針

1. デクセリアルズの調達は、「公正・公明・公平」を旨とし、お取引先さまとの相互の信頼関係と協力により成り立ちます。
  - 「公正」とは、定められた方針や手順に従って調達業務をおこなうこと。
  - 「公明」とは、恣意的な行動をしないこと。
  - 「公平」とは、お取引先さまに対して機会均等に接すること。
2. 技術力の強化、品質の安定と向上、競争力のある価格などの領域においても、お取引先さまとの協同関係を重視します。
3. 地球環境の保全、持続可能な社会の実現に向け、デクセリアルズの掲げる「環境理念」に従い、お取引先さまとともに環境マネジメントに取り組めます。
4. 法令・社会規範の遵守、社会貢献の実現に向け、デクセリアルズ関係者だけでなくお取引先さまとともに実行に取り組めます。

## 調達におけるデクセリアルズグループ行動規範の遵守について

当社グループは、グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化、および法令遵守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を目的として、当社グループの全ての取締役、役員、および従業員一人ひとりが守らなければならない基本的な事項を「デクセリアルズグループ行動規範」として制定しました。

お取引先さまとお取引先において遵守すべき内容(「公正な調達」「贈答・接待」など)についても、その基本方針をこの行動規範の中に定めており、その遵守徹底に努めています。

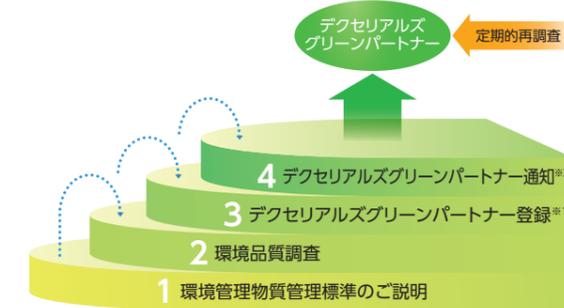
## デクセリアルズ製品に使用する原材料部品の調達

当社グループでは、地球環境保全に配慮した製品づくりのために「環境管理物質管理標準」を定め、使用禁止や削減を図る環境管理物質とその用途を明確にし、それに

もとづく製品づくりをおこなっています。

その達成にご協力をいただけるお取引先さまはデクセリアルズグリーンパートナーと称し、原則、製品に使用する原材料・部品は、デクセリアルズグリーンパートナーのお取引先さまからのみ調達します。

### ◆デクセリアルズグリーンパートナー登録制度



※1 基準を満たす企業をデクセリアルズグリーンパートナーとして登録  
※2 登録した企業にデクセリアルズグリーンパートナーとなったことを通知し取引開始

### 環境管理物質管理標準とは

当社グループがお取引先さまに提示している「環境管理物質管理標準」では、当社製品の部品・材料などに含有される物質のうち、地球環境と人体に著しい影響を持つと当社が判断したものを「環境管理物質」と特定し、管理対象としています。

その環境管理物質については、即時に使用を禁止する物質、全廃を目指す物質、適用除外項目を明確にし、当社製品への混入防止または削減状況の管理をおこない、地球環境保全および生態系に対する影響を軽減することを目的としています。

この標準に明示されていない物質、あるいは用途であっても、各国または地域の法令により使用が禁止または制限されているものについては、それらの法令に従います。

## 紛争鉱物への対応

当社グループは、人権侵害などに関わる紛争鉱物を含む原材料・部品を使用しないという方針のもと、責任ある調達を推進しています。製品を供給する者として当社製品に含まれる対象鉱物のトレース情報を確認の上、お客さまに対して適切に情報提供しています。

# 地域社会とともに

デクセリアルズグループは地域社会の一員として、主に事業所を置くさまざまな地域の発展に貢献するための活動を積極的におこなっています。



## 林野庁が推進する 企業の森づくり活動

当社は、栃木県鹿沼市の自治体と5年間の協定を結び、「創造の森」と名づけた森づくりをおこなっています。この企業の森づくり活動に対しては、栃木県よりちぎカーボンオフセット証書(合計94.47t-CO<sub>2</sub>)が発行されています。



さくら市「創造の森」  
(2017年3月をもって協定終了)



矢板市「創造の森」  
(協定終了)

2016年3月をもって協定が終了した矢板市の創造の森は、活動をはじめた2010年からの5年間で、0.5haの土地に植えた1500本の木々も大きく成長しほぼ自立できる森となりました。現在は矢板市に返却し管理されています。



鹿沼市「希望と創造の森」

## 花いっぱい活動

当社では、社員のみならず地域の方々にも環境への関心を持ってもらえるよう、事業所敷地内やその周辺に色とりどりの花を植えています。



## 足尾に緑を取り戻す活動

当社は2009年よりNPO法人足尾に緑を育てる会が提唱する「足尾の山に100万本の木を植える」という趣旨に賛同し、法人会員として育苗、植樹、草刈、間伐などの森づくりをお手伝いしています。

足尾の森林の復旧は約100年前から続けられていますが、森に回復した場所はまだまだわずかです。森を取り戻すには多くの人々の継続的な活動が必要です。当社はさまざまな面からの活動を支援しています。



大畑沢(25年前)



近年



2016年4月、同会が毎年開催している「春の足尾植樹デー」イベントに参加し、有志社員による運営のお手伝いをおこないました。

2016年11月、当社2016年度新入社員29名が、研修の一環として足尾銅山で植樹活動をおこないました。

当社は、社員が日本の公害の原点として知られる足尾銅山を実際に訪れ、公害による深刻な被害を目の当たりにすることが、企業として活動していく上での社会的責任を学ぶ貴重な機会になると考えています。当社は今後も、持続可能な社会の実現のため、環境保全活動に積極的に取り組んでいきます。



## 清掃活動

### ● なかだ事業所

なかだ事業所では、2016年5月にごみゼロ活動、2016年9月に道路ふれあい月間として工場周辺の清掃活動を実施しました。



### ● デクセリアルズ 深セン

デクセリアルズ 深センでは2017年3月に地域の清掃を実施しました。



コーポレートガバナンス

環境への取り組み

社会との関わり

安全への取り組み

コーポレートガバナンス

環境への取り組み

社会との関わり

安全への取り組み

CULTURE & SPORTS

文化・スポーツ

COMMUNITY

その他  
地域との関わり

スポーツチームスポンサー

● ソニー仙台フットボールクラブ(ソニー仙台FC)

当社は2013年より、アマチュアスポーツの振興と地域社会の活性化、青少年の健全な育成を願い、多賀城事業所がある仙台の「ソニー仙台FC」のスポンサーとなり支援をおこなっています。

その一環として2016年11月26、27日に宮城県松島町の松島フットボールセンターを会場に「デクセリアルズ杯第14回宮城県チャンピオンズカップU-12大会」を開催しました。優勝を決めた青葉トレセンには表彰式で石黒執行役員から表彰状とデクセリアルズ杯を授与し、入賞したチームの選手全員に一人ずつメダルをかけてその活躍をたたえました。当社は、未来を夢見る子どもたちの元気な笑顔をこれからも応援していきます。



● 宇都宮ブリッツェン

当社は2015年より、地域社会の活性化とサイクルスポーツの振興を目的として、鹿沼・栃木事業所がある栃木県の「地域密着型プロ自転車ロードレースチーム・宇都宮ブリッツェン」のスポンサーとなり支援をおこなっています。

2016年3月には宇都宮市の清原工業団地内特設周回コースでおこなわれた「プロツアー開幕戦「宇都宮クリテリウム」にて、当社の社員有志4名がメイン駐車場の警備をおこない、安全なレース開催に貢献しました。見事優勝を飾った宇都宮ブリッツェンの鈴木選手ユニフォーム中央には当社のロゴが入っています。

2016年7月、栃木県那須町をメイン会場として開催された「那須高原ロングライド with 那須ブルーゼン&宇都宮ブリッツェン2016」には、当社社員とOB合計9名がボランティアとして参加しました。参加者が安全に走るためにコースに立つ案内係や、参加者全員が無事にゴールしたことを確認するための役割などを担当し、イベント運営に貢献しました。

デクセリアルズプレゼンツ「宇都宮ブリッツェン自転車教室」

2016年12月、宇都宮市森林公園にて小学生以下の子どもを対象に、宇都宮ブリッツェン協力のもとデクセリアルズプレゼンツ「宇都宮ブリッツェン自転車教室」を開催しました。補助輪卒業を目指す午前の部、安全に自転車を楽しめるように指導をおこなう午後の部で計22名の地域の子どもたちが参加しました。



中学生の社会体験受け入れ

当社は、栃木県が「社会・職業についての生徒の理解を深めることで、勤労観、職業観など、将来に向けたビジョンを生徒自身に考えさせる機会を作る」ことを目的として企画・実施する学生の職業体験学習について、上記の趣旨に賛同し、学生の積極的な受け入れをおこなっています。

2016年度には、鹿沼北中学校の生徒3名が、栃木県鹿沼市にある当社の鹿沼事業所を訪れ、当社の製品製造・開発現場の仕事を体験しました。また、職場体験と併せて、当社が環境・地域貢献の一環としておこなう植樹活動にも参加し、企業としての社会貢献の必要性などを学ぶ機会を提供しました。

当社は、今後もこのような機会を通じて地域社会との関係を深めつつ、次世代の育成に取り組んでいきます。



登米エコフォーラムの参加

2008年に宮城県環境コーディネーターのサポートにより活動を開始した登米エコフォーラムは登米市内の企業6社が集まって活動しています。2016年度も参加し、省エネ、省資源を含む環境活動について情報を共有し、話し合いをおこないました。

産業フェスティバルへの参加

2016年10月、登米市迫体育館と迫中江中央公園を会場におこなわれた「第12回 登米市産業フェスティバル」に出展しました。当社の製品サンプルの展示をはじめ、独自の技術に関してパネルで紹介しました。実験・体験コーナーでは、LEDライトや光ファイバーを使った「星座イルミネーションを作ろう」を実施し、来場した子どもたちに好評を博しました。



募金活動

● デクセリアルズ コリア

韓国に拠点がある当社海外法人のデクセリアルズ コリアでは2016年、社員から不要になった服や靴、家電などを募りボランティア団体に販売、その収益金を寄付しました。ボランティア団体では買い取った品物を再利用できる状態にする工程を障がい者の方がおこなっており、今回は品物のリサイクル、障がい者の雇用創出への貢献、収益金の寄付を目的におこないました。デクセリアルズ コリアではこれからもこのような活動に関心を持ち積極的に取り組んでいきます。



コーポレートガバナンス

環境への取り組み

社会との関わり

安全への取り組み

コーポレートガバナンス

環境への取り組み

社会との関わり

安全への取り組み

# 社員とともに

デクセリアルズは、多様な働き方を実現するために働きがいのある職場づくり、ダイバーシティの推進、さまざまなキャリア支援に積極的に取り組んでいます。また、社員家族を招いた各種イベントをおこなうなど、社員にとって魅力ある会社であることを目指しています。

## 働きがいのある職場／ダイバーシティの推進

### 女性の登用・育成のポジティブアクション

当社で働く女性社員は、社員全体の約18.3%にあたり、2017年3月時点の平均勤続年数は男性が18年8ヶ月、女性が19年7ヶ月と女性社員も長期的に活躍しています。2014年から管理職を対象に、女性活躍推進やワーク・ライフ・バランスに関する講演会を実施し、社内啓発活動やノー残業デーの徹底など、時間内に効率的に働くワークスタイルの確立や仕事と育児の両立支援に取り組んでいます。また、厚生労働省の推進するPositive Actionに女性の活躍推進宣言をおこなっています。

[http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search\\_detail?id=1527](http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search_detail?id=1527)

### ワーク・ライフ・バランスの実現

#### 育児

当社は、育児休暇などにおいて法律を上回る両立支援制度を整備し、男女ともに柔軟な勤務ができるようフレックス勤務や育児短時間勤務を設けています。また、育児休業中でも社員が自宅で会社の情報に触れたり、自己啓発や上司とのコミュニケーションを深めることができる「育児休業者能力アップ支援システム」を導入し、スマートフォンからe-ラーニング研修を受講したり、社内イントラネットへ接続が可能な環境を整備しています。



子育てサポート認定事業主マーク (愛称「くるみん」)



いい仕事いい家庭 つぎつぎとちぎ宣言

こうした取り組みから、厚生労働省が子育て支援をおこなう企業に付与する「くるみんマーク」や「かめま子育て

援企業認定」を取得しています。また、「いい仕事いい家庭 つぎつぎとちぎ宣言」に「仕事と家庭の両立」などを応援するための取り組みを宣言しています。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/f06/work/koyou/roudou/dexerials2.html>



かめま子育て応援企業

#### 介護

社員が要介護状態にある家族の介護をおこなうために短時間勤務制度や1年間の休職制度を設け、介護離職ゼロを目指し取り組んでいます。

### 外国籍社員の採用

当社はグローバルにビジネスを展開しており、グループの売上高比率は海外が62%を占めています。国内事業所においてもグローバルに活躍できる人材を求めて、外国籍社員を積極的に採用しています。インターンシップにも積極的に取り組み、外国籍の方がこの機会を利用して就業体験をされています。直近の外国籍社員の採用実績は、15年度に3名、16年度に3名でした。

また、出身国の壁を越えて社員がいきいきと働けるよう、英語での研修や配属先社員の異文化研修、社員食堂でベジタリアンメニューを揃えるなどの職場環境づくりをおこなっています。

## Voice

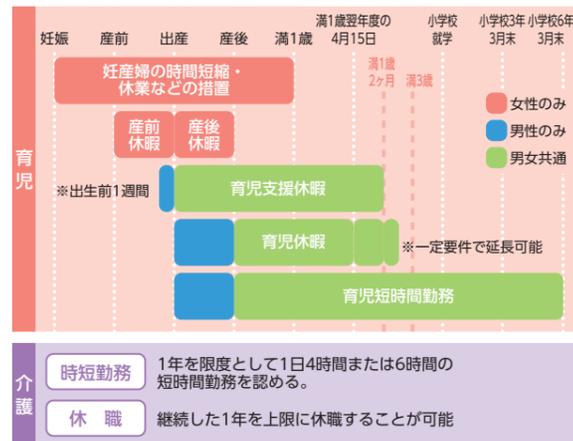
### これからのために、私の育児休暇経験を伝えたい

グローバルマーケティング本部  
販売戦略管理部 営業支援課  
湯尾 綾子



2016年5月から育児休暇を取得し4月に復職しました。今、安心して仕事ができているのは、家族はもちろん職場のみなさんの支援、それに職場の先輩ママのみなさんからのアドバイスがあるからこそだと感じています。妊娠中から復職までは、社内の支援システムや育児制度をフルに活用できたことに加え、別会社で働く夫の短期育休取得も心強かったです。男女ともに制度を利用し安心して子育てができるよう、この経験を社内でも広く伝えていけたらと思います。

### ◆主な仕事と育児・介護の両立支援制度



### 高年齢者の活用

当社では、定年到達後も長く働いていたいという社員の思い、また会社としての労働力確保を合わせ、「定年後も安心して長く働ける仕組み」として、希望する全ての社員を65歳まで雇用する制度を設けています。定年後もこれまでに培ったスキルを活かせる仕事、または新たな領域での仕事を含め、社内での活躍の場を創出し、定年退職後もいきいきと働ける取り組みをおこなっています。

### 障がい者雇用の促進

当社では、障がいのある社員が事務領域から製造領域に至るまで、幅広く活躍しています。聴覚に障がいのある社員が働く職場では、上司や同僚が手話や指文字を覚えたり、安全・防災面からパトライトを設置するなど、職場環境にも配慮しています。

会社内の多様性を広め、社会的責任を積極的に果たしていくことが重要という考えのもと、障がい者雇用を推進する「特例子会社」としてデクセリアルズ希望株式会社が2015年に事業を開始しました。障がいのある方が安心して働ける職場環境を整備し、現在、社員25名(内障がい者12名)がデクセリアルズ構内で、清掃、緑地管理などの事業活動をおこなっています。なお、当社グループの障がい者雇用率は3.2%となります。

## 成長支援(人材育成)

### 人材育成基本方針

当社では、人材育成の基本方針を定めています。社員には自律的な働き方を求め、会社はそれを支援するさまざまな活動をおこなっています。

#### <デクセリアルズ人材育成基本方針>

- 社員一人ひとりの成長が最も大切と考えています。
- 社員に「自ら学び、自ら考え、自ら行動し、成長し続ける」ことを求めています。
- 社員の成長とキャリア形成を支援するための活動をおこなっていきます。

### キャリア支援

社員一人ひとりが専門性を身につけ、新たな価値創造ができる人材となるために、当社ではジョブファミリー(職

種群)制度を導入しています。社員は、技術・開発、製造、営業、企画・管理の4つのいずれかに所属し、各ジョブファミリーでのキャリア形成を強化しています。各ジョブファミリーには人材育成責任者を配置し、専門性を高めるための研修の実施や、社員が主体的にキャリアを形成していくためのキャリア面談など、さまざまなサポートをおこなっています。入社初年度には先輩社員(チューター)による新入社員のフォローアップ、その先も年代別のキャリアデザイン研修もおこなっており、各ステージにおいてキャリアを支援する活動をおこなっています。

### 研修制度

当社では、多様な研修プログラムを通じて、一人ひとりが能力を発揮できる環境を作り、未来を担う人材育成に取り組んでいます。ビジネススキル研修、階層別研修に加え、ジョブファミリーごとに必要な知識・スキルを習得するための研修や自己啓発プログラムを提供しています。

またハラスメントの防止やコンプライアンスの徹底など、年間を通じてさまざまなe-ラーニング研修も実施しています。今後はグローバル人材や技術開発、組織力の強化を目指し、次世代を担う人材を育成していきます。

#### ◆当社の研修体系

階層別プログラム	ジョブファミリー別プログラム	ビジネススキルプログラム
新入社員研修	製造系	プレゼンテーション
中堅社員研修	技術・開発系	ロジカルシンキング
マネジメント研修	営業系	語学研修
リーダー開発研修	企画・管理系	キャリア開発

## その他

### ランドセル贈呈式

当社では毎年、社員のお子さまの小学校入学をお祝いし、ランドセルの贈呈をおこなっています。各事業所を対象のお子さまとご家族をお招きし、社長や役員の手から直接お渡ししています。

2016年度は68名の新1年生にランドセルをお渡ししました。また、式典後は各職場や工場の見学もおこなっています。



# 労働安全衛生・防災

デクセリアルズグループは、事業に重大な影響を与える可能性のある災害や事故の未然防止、または被害を最小限にするための社員教育や設備の補強・改善を計画的に実施しています。また社員が健康で衛生的に働けるようさまざまな取り組みをおこなっています。

## 安全衛生防災理念

当社グループは「安全が新たな価値と質の向上に不可欠なもの」と認識し安全で健康的な事業の場、モノづくりの場であり続けること」を安全衛生防災理念としています。

## 安全衛生防災基本方針

安全衛生防災理念をもとに、全ての業務領域において現場における安全風土の底上げと重大な災害を防ぐため、自律と連携、3現主義『現場・現物・現実』を重視し「Safety FIRST Action」と名づけた安全防災活動を推進しています。

### ◆FIRSTに込めた思い



## 労働災害発生状況

当社での2016年度の休業災害は3件、不休業災害は5件発生しました。発生した災害は原因調査、分析、改善をおこない、また、その情報を全社で共有し、再発防止に努めています。今後も重大災害の防止とともに、職場における危険・健康被害などのリスク抽出と低減活動、およびさらなる安全職場風土向上に取り組んでいきます。

### 安全衛生防災活動紹介

ヒューマンエラーによる災害、機械設備の不具合による災害、化学物質による健康障害、交通事故、火災などのさまざまな災害を未然に防止することを重点課題とし、安全衛生防災活動に取り組んでいます。



機械設備安全チェック



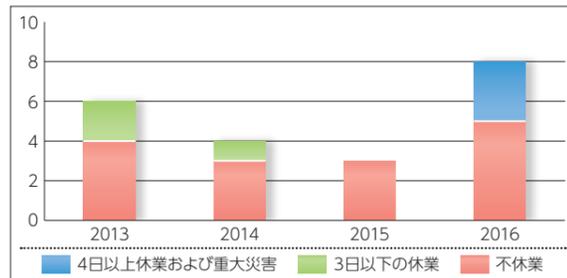
爆発体験



交通事故体験



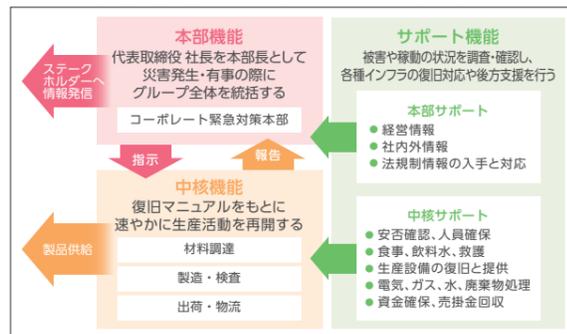
消火訓練



## 事業継続計画(BCP)活動

地震や台風などの自然災害や新型インフルエンザなどの感染症は、事業に必要な人員や設備、ライフラインに被害をおよぼす可能性があります。当社グループでは、有事の際にも被害を最小限にとどめ、すばやく復旧して生産活動を再開できるよう事業継続計画(BCP)を策定しています。社内の組織はBCP本部をはじめとして、お客さまに製品を供給するための原材料調達・製造・物流、営業、社員の安否確認、データシステムなど、機能別に組織の役割を明確化し、想定される対応・行動をもとに復旧マニュアルを作成しています。今後もさらなるBCPの運用強化を目指し、危機管理能力と事業継続力の向上に取り組んでいきます。

### ◆事業継続計画(BCP)の組織構成と機能役割



## 設備防災

当社では、災害発生時において事業活動に重大な影響を与える可能性のある事故の発生を未然に防止し、万一発生した場合でも、その被害を最小限に抑えることを目的として、災害リスクの緊急性や重要度に応じた改善を計画的に実施しています。

### 栃木事業所の耐震補強

2016年10月からの栃木事業所の稼働に際し、同事業所内の各建物の耐震性を検証した上で、必要に応じ耐震改修工事を実施しました。また、災害時における従業員の安全を確保するため、エレベーターに対しP波地震感知による閉じ込め防止対策をおこなっています。

さらに、地震による2次災害防止策として、配管・ダクトの破損による漏洩被害を防止するため、建屋外部・天井裏の配管などの耐震補強を実施しています。



補強金具を用いた配管の耐震補強例

### 配管の地震破損リスク対策

鹿沼事業所、なかだ事業所では、配管からの薬液漏洩防止のため、薬液配管を二重化しています。

また、スターション\*と呼ばれる工場配管・配線を敷設するための共通支持架台は、地震で倒壊すると配管中の溶剤や廃液が流出する恐れがあるので、「地震リスクアセスメント」の診断結果をもとに構造躯体・積載物の重量などを精密に調査・分析し、耐震性能(IS値)を算出して地震対策をおこなっています。

\*スターション…建物間で電気、ガス、水道などを供給するための配管などを渡す設備のこと。



## 教育・訓練

### 環境管理物質使用状況プロテクト点検

なかだ事業所では、有機溶剤取り扱いでの無事故を継続するために、プロテクト点検を実施し、揮発性有機溶剤の使用状況と環境事故未然防止のための方策を毎年確認しています。



### 溶剤漏洩対応訓練

#### 国内

鹿沼事業所では、事業部がそれぞれのリスクに対応した訓練を実施し、不具合点や反省点をフィードバックして漏洩対応を改善しています。これまでの訓練の積み重ねで漏洩対応は高いレベルを維持しています。



屋内での溶剤漏洩時の緊急対応訓練(鹿沼事業所)

#### 海外

当社の海外工場でも、漏洩訓練を定期的に行い、社員のスキルアップを図っています。



屋内での化学物質(薬液)漏洩時の緊急対応訓練(デクセリアルズ 蘇州)

## 健康診断

労働安全衛生法にもとづく定期健康診断・特殊健康診断をはじめ過重労働対策の一環として超勤健康診断を毎月必ず実施しています。35歳以上の希望者は全員人間ドックを受診でき、がんの早期発見・予防に繋がっています。

人間ドックや健康診断の結果を受け、必要に応じ産業医と保健師が個別指導や集団指導を実施しています。特定保健指導では、外部講師を招いてメタバ教室を実施し、生活習慣病の改善、疾病予防に取り組んでいます。その他、歯科健康診断を毎年社内にて実施しており、歯科医による健診、ブラッシング指導を通じて、社員の口腔内疾病の早期発見・早期予防に繋がっています。

## メンタルヘルス対策

### ストレスチェック

労働安全衛生法改正にもとづき、2016年度より全社員を対象にストレスチェックを開始しました。ストレスチェックを通して社員個々のストレスへの気付きと対処を実施するとともに、集団分析結果を産業医が安全衛生委員会にて周知しています。今後はさらに詳細な分析から問題点を把握し、職場改善に繋げ、働きやすい職場づくりを目指していきます。

### メンタルヘルス講習会

毎年管理職を対象としたラインケア講習会を開催しています。2016年度は、産業医や外部の臨床心理士を招き、管理職のコミュニケーションスキルを磨くための講習会を開催しました。受講者からは、日頃からコミュニケーションを取り、より良い職場環境づくりに努めたいとの意見が寄せられました。



また、社員一人ひとりのセルフケアを促すため、産業医によるセルフケア講習会を開催しています。対象者別講習会を開催することで、より身近な問題に対する対処法を学びメンタル不調の未然防止に繋がっています。

### 社外カウンセリング

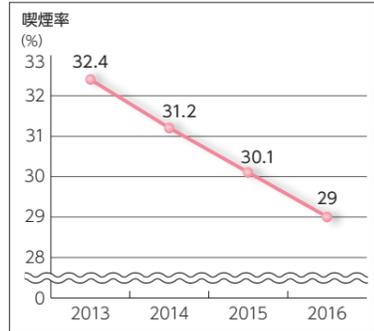
社員が悩みを抱え込まず、より早く相談できる体制づくりのため、社外にも無料カウンセリング室を設けています。社内外、産業医、保健師、臨床心理士など、さまざまな相談体制を整え、厚生労働省の「労働者の心の健康保持増進のための指針」で示されている「4つのケア」のメンタルヘルス対策を進めています。

## 禁煙活動

屋内禁煙や喫煙時間の設定など、環境面からの禁煙活動を進めるとともに、禁煙意志のある社員に対し健康保険組合と連携し、禁煙サポート活動を実施しています。具体的には、禁煙外来への通院による禁煙プログラムへの参加希望者に対し補助金を支給することにより社員の禁煙への取り組みを後押ししており、その結果、これまでで禁煙プログラム参加者の約60%が禁煙を達成しました。

これらの取り組みにより社内の喫煙率は減少を続けており、2016年度は2013年度と比較すると3.4%減少しました。

◆デクセリアルズ社員の喫煙率推移

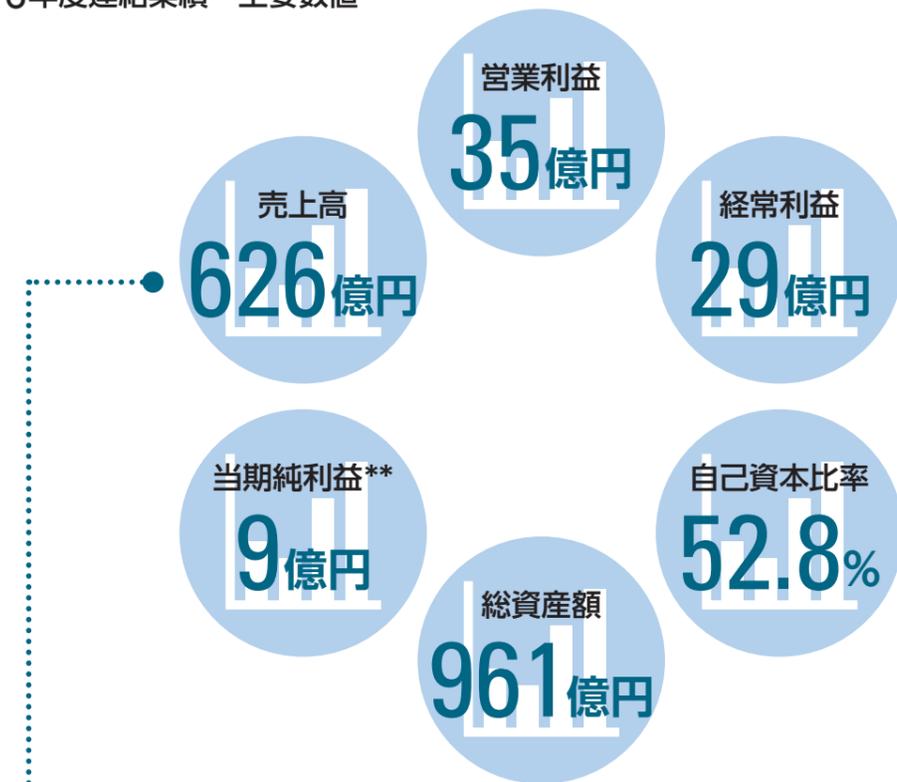


## 献血活動

当社では、各事業所において年2回献血活動を実施し、多くの社員が献血に協力しています。2014年度には、鹿沼事業所が第50回献血運動推進全国大会において厚生労働大臣感謝状を贈呈されました。これからも身近にできるボランティア活動のひとつとして進めていきます。

# 財務情報

2016年度連結業績 主要数値\*



### 事業セグメント別の売上高構成比、主な製品



### 海外売上高比率



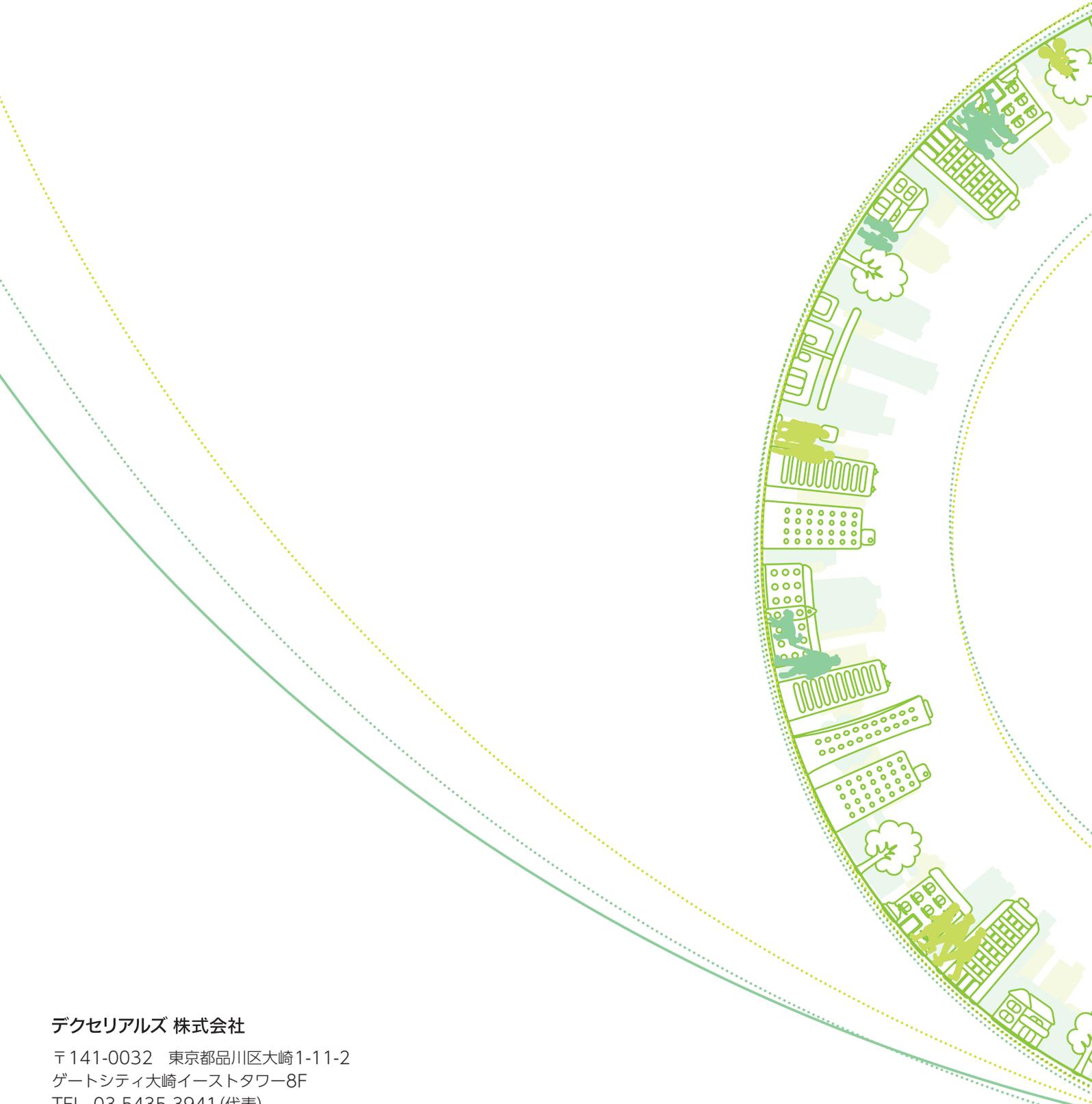
### 研究開発費



### 設備投資額



\*詳しいIR情報は当社IRサイト(<http://www.dexerials.jp/ir>)をご覧ください。  
\*\*親会社株主に帰属する当期純利益に読み替え



**デクセリアルズ 株式会社**

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2

ゲートシティ大崎イーストタワー8F

TEL 03-5435-3941 (代表)

URL <http://www.dexerials.jp>

本報告書に記載されている会社名および製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

©2017 Dexerials Corporation



2017年7月発行